

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00629

研究課題名(和文) 中世宝物の贈与・寄進に関する比較美術史学的研究

研究課題名(英文) Comparative Art Historical Studies on Medieval Treasures

研究代表者

秋山 聡 (Akiyama, Akira)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：50293113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：前近代において、近代的な「美術作品」に代わる有効な概念であると思われる「宝物」という概念に着目し、主としてのその贈与・寄進に重点を置きつつ、「芸術の時代以前」の造形物について、日本、東洋、西洋、その他の地域の事例を博捜し、相互に比較することによって、相対化するとともに、宝物とされる造形物についての地域や時代特有の性質を明らかにすることに努めた。併せて、今日の美術コレクションにあたる造形物収集の諸相について、やはり諸地域における事例を博捜、精査し、相互の相対化と、地域的・時代的特性の抽出を試み、一定の成果をみせたように思われる。日本・東洋分野では、今日の絵画コレクション研究への貢献も果たした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

芸術概念は近代以降に形成、確立されたにもかかわらず、前近代の造形物についての研究においても、しばしば無前提に芸術概念が適用されるくらいがある。ベルティンクにより、前近代の造形物研究にはイメージ概念の適用が提唱され、一定の成果を挙げてきているものの、イメージの内包する範疇はあまりにも大きく、時に曖昧性を除去しえない。そのため、本研究では前近代に既に存在していた宝物概念をイメージの代わりに用いることにより、近代以前の造形物とそれをめぐる文化の理解に新たな地平を開こうとするものであり、近代以降の概念のくびきから一旦距離を置いて、前近代の造形物を捉える新たな視座を提供しうる。

研究成果の概要(英文)：Using the concept of "treasure", which seems to be an effective alternative to the modern concept "work of art", and focusing mainly on its donations, we explore figurative objects "before the era of art" from various regions and compare them with each other. We tried to relativize them and clarify the characteristics of the "treasures" that are peculiar to the region and the periods. At the same time, regarding the various aspects of the collection of art works in the pre-modern period, we also explored and scrutinized cases in various cultures, tried to relativize each other and extract regional and historical characteristics.

研究分野：美術史学

キーワード：美術史 宝物 比較美術史 コレクション

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、前近代の美術を研究対象とする場合、1990年代以降、H.ベルティンクやD.フリードバーグの影響もあり、芸術ないし美術ではなく、「イメージ」という用語が好んで用いられる傾向にあるが、その意味するところはあまりにも広い。また、イメージという言葉が同時代において今日と同様に用いられたとは限らない。前近代の造形物を近代のフィルターを極力通さずに、公平に扱い得る概念を用いて、西洋や日本・東洋、その他の地域の造形物を、相互に相対化しつつ、公平に扱い、比較研究する必要性を感じて、本研究を立案するに至った。

2. 研究の目的

本研究では、今日の美術作品とかなりの程度重なりながら、前近代において複数の文化において独自の範疇を形成していた「宝物」概念に着目し、物質的な宝物およびその贈与や寄進という行為の諸相について、西洋、日本・東洋美術史それぞれの研究蓄積を活用し、聖俗混淆の様相を考慮しつつ、宝物の具体的様相を探求すると共に、その収集・制作・管理・鑑賞・流通・仲介者等の諸ファクターとの関連を重視したアプローチを通じて、明らかにすることを旨とするものである。また、各地域研究の成果を相互参照し、それぞれの研究を刺激し合うと共に、相互比較研究を試みることによって、宝物およびその贈与・寄進についての地域的、時代的特性および普遍的特性を明確にするとともに、聖俗の宝物についての一層包括的な美術史学研究を展開するための国際的基盤を形成し、美術史学および隣接諸分野の発展に寄与することを目指す。

3. 研究の方法

西洋美術・比較美術史班：

2018年度春にマックス＝プランク研究財団在フィレンツェ、ドイツ美術史研究所長G.ヴォルフを招き、熊野地方で調査を行うとともに、新宮市と東京大学において研究会を開催した。宝物や聖地の形成の根幹に自然と人との「対話」があるという氏の指摘は、研究者間に反響を呼び、共同研究の継続的展開が検討されることとなった。代表者は、ハーバード大学・名古屋大学共催「象内納入ワークショップ」に招待され、宝物という観点から聖遺物と舍利の納入についての比較美術史的なコメントを行った。また新宮市において国際熊野学会との共催で開催された地中海学会大会のシンポジウムにおいても、隣接分野の研究者たちと宝物の比較研究の可能性を検討するとともに研究交流を行った。比較美術史班は、日本建築史を専門とする研究協力者(松崎照明)と国内外の教会や社寺において宝物調査を展開し、新たな知見を獲得した(宗教文化を越えて各種宝物調査を行った結果、日本の宝物は、寄進宝物と当該社寺所縁の宝物とを区別する必要があること、熊野三山と他の社寺では、宝蔵・堂蔵での収納の様相や開示の方法が異なっていたことなどが浮かび上がった。)

2019年春にジュネーブ大学のD.ガンボーニ教授を招き、新宮市と東京大学において研究会を開催した。前近代における宝物と造形との相関性について、参加した研究者を交えて議論を行うことにより、宝物概念についての国際相互比較にとって有益な示唆を多く得た。また、フィレンツェで開催された第35回国際美術史学会において、秋山が共同座長を務めた第一セッションにおいて、松崎が中世日本の山岳寺院と宝蔵について報告し、現地マスコミから取材を受ける等、一定の反響を呼んだ。秋山は11月に早稲田大学における国際研究集会、12月に青山学院大学でのシンポジウムにおいて、これまでの成果について報告、物質性の希薄な宝物としての「寸法」についての論考をまとめた。松崎は1月に東京大学で開催されたフォーラムにおいて報告を行い、成果の一部が反映された単著『山に立つ神仏』を上梓した。

2020年度以降は、コロナ禍の影響もあり、主として国内社寺の宝物調査に力点を置きつつの比較美術史研究を展開したが、秋山はスイス、フリブル大学で開催されたオンラインによる国際研究集会において、レガリアと君主の身体性に係る比較研究について報告し、一定の評価を得た。

中国美術班：

国内外の機関での中国絵画悉皆調査を行い、模本等の調査からもイメージの流通経路、具体的な事例をめぐって各々の時代における絵画史観が明らかになった。また、清朝の宮廷宝物およびその都市図の制作について、鑑賞者と設置場所の問題から考察を進めると共に、清朝の皇帝コレクションと日本との交流や徳川将軍家コレクションとの関係についての調査研究等を行った。2019年度には日本および中国の宝物コレクションについてのこれまでの成果を積極的に論文発表した。2020年度以降は、『中国絵画総合図録三編』完結記念シンポジウムとして「東アジア美術研究の回顧と実践 - コレクションとアーカイヴ」(2021年3月)を開催し、国内外よりの多くの参加者と議論を共有し、アーカイヴとその活用についての新知見を得るとともに、前近代の「宝物」概念考察へのフィードバックを得た。また、成果の一部は『アジア仏教美術論集 東ア

ジア 『北宋・遼・西夏』にも反映された。

日本美術班：

2018年度は、中世後期における杭州と西湖のイメージの広がりを絵巻等の絵画から探り、琵琶湖畔の寺院を、西湖畔の寺院になぞらえ、その風景を理想化して絵巻に描き、これをその寺院に奉納することで二重の神聖性を得ようとしたことを指摘した。また、三條西実隆による天王寺・高野山巡礼の記録を分析し、彼が拝見して寺社の宝物由来と、同時代における寺社復興・勸進活動の関わりを浮かび上がらせた。2019年度には、日本中世の政権や寺社による絵画（絵巻・屏風・仏画・肖像画）の制作・コレクション・贈与・奉納の実体について、広く作品や資料を渉猟・調査し、その成果の一部を『中世やまと絵史論』において提示した。また、中世の天皇による美術工芸品や楽器の制作について、古代天皇家の宝蔵の所蔵品を転写した事例を複数調べ、相互の密接な関係について口頭発表を行った。2020年度以降にはフランス、フォンテーヌブロー宮殿所蔵の日本古美術の調査に基づいて、同宮附属美術館での展覧会図録の執筆や口頭発表を行うとともに、米国・ボストン美術館に所蔵される日本古美術の総合調査に関する図録を刊行した。（9世紀から20世紀に形成された国外の日本美術コレクションとして重要な作品群であり、日本近世から近代にかけて「宝物」が、国外において美術品として再評価された文脈が明らかとなった。

なお、総括的行事として、2021年12月に、本研究の成果発表の場を兼ねたシンポジウム「宝物とそのいれもの」を開催し、学際領域の研究者や若手を招きながら、登壇者対面＋オンラインで開催し、一定の評価を得るとともに、議論・情報交換を通じて、研究とりまとめに資する知見を得ることができた。

4. 研究成果

新型コロナ禍により、当初想定されていた研究方法が必ずしも全て採用するわけにはいなくなりましたが、比較美術的研究において、国内事例の調査研究に比重をシフトさせることにより、大きな変更を加えることなく、研究計画を遂行することができた。また、国内の聖地霊場における宝物の在り方についての見聞が深まることにより、当初想定されていなかった新たな視座が浮かび上がり、宝物およびその贈与・寄進に関する比較美術史的考察に、より複眼視的な幅が付与されたという点が、予想外の成果と言える。例えば日本美術班ならびに中国美術班による、今日の美術コレクションについて目録・図録作成（中国絵画総合図録やボストン美術館日本絵画目録等）の作業を通じて、前近代における宝物コレクションや宝物目録作成との相違や類似点を明らかになるとともに、コレクションという文脈が変わる度に、個々の造形物の位置づけや価値が変化する点からも、イメージという用語の一定の活用価値が確認されるものの、コンテキストごとの詳細な分析においては、前近代を通じて普遍的に用いられてきた節のある宝物概念の方が、より有効に歴史的分析が行えることが浮かび上がってきた。なお、こうした両班の目録・図録作成の過程で顕在化した諸点については、西洋美術班において西洋の造形物コレクションの事例と照らし合わされ、概ね西洋においても同様の傾向が看取されることが確認され、前近代の造形物およびそのコレクションについての歴史的研究にはやはり宝物概念が有効であることが判明した。

また、中世期を中心とした宝物の贈与・寄進についての新知見のいくばくかについて触れるならば、まずは西洋と日本・東洋における宗教的な宝物に関して寄進および寄進者についての言及の在り方が大きくことなる点が挙げられる。

西洋においては、宝物とは第一義的に聖遺物であり、ミサにおいて祭壇で用いられる祭具・祭布・書籍、司式者がまとう祭服等であった。宝物コレクションにおいて大きな比重を占める金属工芸品のは、祭具を除いて、それ自体が本来宝物ではなく、宝物を安全に保管するとともに、その聖性価値を視覚的に伝達するための手段であったが、本来の宝物である聖遺物とほぼ一体的に捉えられるようになり、実質的に宝物に準じるステータスを獲得したものである。また、偶像崇拝を警戒するキリスト教文化においては、絵画や彫刻は、宝物を賞揚・荘厳かつ説明するものとして重視されはしたが、本来それ自体が宝物価値を有するものではなかったが、時代が下るにつれて宝物に準じる扱いを受けもした。聖遺物容器や絵画・彫刻等といった宝物ないし準宝物の大きな特徴の一つは、これらの造形物のほとんどが、寄進されたものであり、寄進者名が刻まれている点である。多くの教会で催された宝物展覧行事においては、口頭による説明が加えられるのが常であったが、現存する台本等の分析からは、寄進者名が言及されたり、明記されたりすることが多かった。つまり、容器の寄進は、寄進者の信心深さと名声を、長くこの世にとどめる手段でもあったことになる。このことは、古代末期以来の教皇の事績をまとめた『教皇事績録』中における歴代教皇の事績の多くが、教会への事物の寄進であることとも合致するものと思われる。西洋キリスト教において、教会への造形物の寄進は、篤信と顕示的消費の両面を持つ、宗教上きわめて重要な行為の一つであった。

これに対して日本においては、寺院と神社間でも宝物概念には相違が認められるし、宝物と奉納物との区別が定かではないものも少なくない。寺宝は教会宝物に近いところが多々あるが、神宝はどちらかというキリスト教宝物と通ずるところが多いが、神社の宝物には、寺宝と同様に、縁起や伝説に係る一種の接触型聖遺物が含まれもするが、他方、いわゆる神宝はどちらかという西洋における奉納物に近い。宗教的な宝物を考察する上では、物質的な宝物については、複数の異なるニュアンスを付与されて用いられたことへの顧慮が必要と思われ、比較的考察を行う上では、一層精緻に概念的分類が行われることが必要かもしれない。また、寄進・贈与に関しては、造形物の表面に個別に寄進者名が記されることを基本とする西洋に比して、寄進者名の表示については様々に異なるパターンがあることがうかがわれ、分類・整理が望まれる。結縁者としての寄進者の場合は、外界の目に触れないケースも多く、この点も西洋とは異なるようだ。

なお、前近代の造形物を考察する際に、しばしば弊害となるのは、芸術概念だけではない。我々に浸透している近代的な文化財概念もまた時にものの見方を誤らせる危険を有している。とりわけ、造形物を後世のために保存すべきであるという概念は近代以降の発想であり、洋の東西を問わず前近代においては宝物ですら、専ら使用価値を有しており、時に消耗品扱いされたことが、本研究でも明らかにされた。一部の例外を除いて、前近代において宝物は、使用されることが前提となった上で、珍重されていた傾向が大きく、損傷を被った際の修復・修繕は、教会や宮廷にとって重要だが、織り込み済みのプロセスとみなされていた。

また世俗の宝物と宗教的宝物との間に位置づけることによりレガリアの比較研究がより進むことも浮かび上がった。諸文化においてレガリアは優れて政治的な機能を有する宝物だが、その権威の源泉は多くの場合宗教的な所縁に求められ、聖俗相半ばした性質を有している。また君主のレガリアの周辺には、有力な君臣の準レガリアとも言うべき宝物が洋の東西を問わず存在した。日本の場合、藤原摂関家の朱器大盤や足利將軍家の御小袖等がこれにあたり、レガリアは宝物研究の枠組みの中で、比較文化的研究を行うことが有効であるものと思われる。なお、日本の三種の神器もまた使用価値を有するレガリアではあるが、可視性が担保されない、という点ではかなり珍しい事例と思われ、不可視のままレガリアの機能を保持しえた背景の探求がさらに望まれる。

以上に例示したように、前近代の諸文化における造形物やレガリアの解釈において、宝物概念を適用することにより、これまでになく容易かつ客観的に比較美術史的・比較文化的考察が効果的であることが浮かび上がってきたのが、本研究の成果の一つである。

なお、本研究を遂行する内に浮かび上がってきた予想外の成果の一つは、人文学の蓄積・成果を応用・活用しての地域における社会教育・地域文化振興等の推進可能性である。G. ヴォルフ教授や D. ガンボー二教授来日時に、東京だけではなく、和歌山県新宮市において、広く地元市民にも公開し、逐次通訳を付けた研究集会を開催したところ、予想を越える活発な議論が行われ、研究上のフィードバックを多く得ることができ、また招待研究者の方々にも大きな刺激となり、地元新聞紙でも大きく報道された。これを契機に、新宮市とは人文学を中心としての各種連携活動が継続的に行われるようになった。日本古来の聖地とされる熊野三山の一つ速玉大社は、新宮市の中心にあり、その宝物で知られるが、そうした環境に身を置く市民の方々との交流が、宝物の研究調査に大きく寄与することとなったのは、思わぬ成果であった。ポピュリズムや反知性主義の勃興や、日本学会議会員任命問題等により、人文学と社会との乖離が顕在化した昨今、人文学の成果を、それぞれの研究テーマに適合した地域において、積極的に社会発信する試みを継続できればと考えており、ひいてはそれが研究の進展をももたらしうると期待している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 秋山 聡	4. 巻 36
2. 論文標題 デューラーにおける「測定」重視の背景について：「聖なる測定」に関するノート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術史論叢	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masaaki Itakura	4. 巻 -
2. 論文標題 The Imperial Treasures of the Shosoin and the Collections of the Tang Emperors	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asian Art History in a Transnational Context	6. 最初と最後の頁 32-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 板倉 聖哲	4. 巻 -
2. 論文標題 文人画圏内の「浙派」画家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『明代生活美学論壇文集 中華文物學會四十周年紀念』	6. 最初と最後の頁 36-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 板倉 聖哲	4. 巻 -
2. 論文標題 北宋絵画としての「清明上河図」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『決定版 清明上河図』（国書刊行会）	6. 最初と最後の頁 128-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉 聖哲	4. 巻 1987
2. 論文標題 汪肇と「竹川詩画(竹林山水図)巻」:「狂態邪学」派の多様性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国華	6. 最初と最後の頁 7-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉 聖哲	4. 巻 -
2. 論文標題 芸州浅野家の中国絵画コレクション 近世後期・近代の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『入城400年記念 広島浅野家の至宝』展図録 (広島県立美術館)	6. 最初と最後の頁 160-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉 聖哲	4. 巻 -
2. 論文標題 桃花源をめぐる画像の展開 中国絵画を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『桃源郷展 蕪村・呉春が夢みたもの』図録 (大倉集古館)	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉 聖哲	4. 巻 108
2. 論文標題 江戸時代細川家の「唐絵」収集 『古画御掛物之帳』を起点として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『季刊永青文庫』	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉 聖哲	4. 巻 -
2. 論文標題 “東山表具”の成立をめぐる小考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本の表装と修理』（勉成出版）	6. 最初と最後の頁 92-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉 聖哲	4. 巻 -
2. 論文標題 東アジア絵画への眼差し 近代「日本画」成立以前	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本画の所在 東アジアの視点から』（勉成出版）	6. 最初と最後の頁 105-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Takagishi	4. 巻 117
2. 論文標題 The Development of International Research on Japanese Art History: With a Focus on Yashiro Yukio's Study of Illustrated Handscrolls	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ACTA ASIATICA	6. 最初と最後の頁 51-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高岸輝	4. 巻 -
2. 論文標題 「室町・戦国時代の西湖憧憬 旅する眼に映った日本の「西湖」」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『西湖憧憬 西湖梅をめぐる禅僧の交流と十五世紀の東国文化』、神奈川県立金沢文庫、展覧会図録	6. 最初と最後の頁 99-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 -
2. 論文標題 「晁斎にとっての中国絵画 『晁斎画談内篇』を中心に」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『河鍋暁斎 その手に描けぬものなし』展図録 サントリー美術館	6. 最初と最後の頁 200-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 35
2. 論文標題 日本における(伝)蘇軾「木石(枯木怪石)図鑑」の伝来と評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『美術史論叢』	6. 最初と最後の頁 167 175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本鷹充	4. 巻 1474
2. 論文標題 徐揚「京師生春詩意図」と重華宮 清朝宮廷絵画の表現、場所と鑑賞者	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『國華』	6. 最初と最後の頁 29 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 20
2. 論文標題 聖像/偶像のエージェンシーをめぐるノート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『西洋美術研究』	6. 最初と最後の頁 144-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 62
2. 論文標題 聖像と聖なるもののエージェンシー：比較美術史の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『青山学院大学文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 36
2. 論文標題 聖像と観者とのインタラクティブな関係をめぐって：比較宗教美術史的観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『美術史論叢』	6. 最初と最後の頁 76-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 38
2. 論文標題 造形イメージの着装についての若干の考察 - 比較宗教美術史的観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『言語文化』	6. 最初と最後の頁 24-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 -
2. 論文標題 夢ないし幻視における像の生動性についての比較美術史的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『聖性の物質性』	6. 最初と最後の頁 219-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 -
2. 論文標題 聖なるモノの来し方、行く末 - 教会宝物をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『宗教遺産テキスト学の創成』	6. 最初と最後の頁 379-395
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 479
2. 論文標題 『中国絵画総合図録』完結	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東方』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Akiyama/Giuseppe Capriotti/Varentina Zivkovic	4. 巻 -
2. 論文標題 The Mystical Mind as a Divine Artist: Visions, Artistic Production, Creation of Images through Empathy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MOTION: TRANSFORMATION 35th Congress of the International Committee of the History of Arts	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Dario Gamboni
2. 発表標題 Material, Place, and the Sacred Image
3. 学会等名 ダリオ・ガンボニー講演会 (東京大学本郷キャンパス)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Akiyama/Giuseppe Capriotti/Valentina Zivkovic
2. 発表標題 The Mystical Mind as a Divine Artist: Visions, Artistic Production, Creation of Images through Empathy: An Introduction
3. 学会等名 35th CIHA World Congress (国際美術史学会第35回世界大会)(Firenze, Italia)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Teruaki Matsuzaki
2. 発表標題 Kake-zukuri: A Japanese Building Type of Mountain Religion for the Mystical Experience
3. 学会等名 35th CIHA World Congress (国際美術史学会第35回世界大会)(Firenze, Italia)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Akiyama
2. 発表標題 On Vestments for Statues, from Comparative Perspectives
3. 学会等名 International Workshop: Modern Sacred Images in Europe and Japan: Contact, Comparison, Conflict (Waseda University)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山 聰
2. 発表標題 聖像と聖なるモノのエージェンシー：比較宗教美術史の試み
3. 学会等名 シンポジウム：東西の聖なるもの：比較文化論を拓く(青山学院大学)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山 聡
2. 発表標題 聖地の記述 / 記録
3. 学会等名 東大人文・熊野フォーラム (東京大学本郷キャンパス)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋山 聡
2. 発表標題 人文(学)と熊野
3. 学会等名 東大人文・若手フォーラム in熊野 (新宮市福祉センター)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高岸 輝
2. 発表標題 ハーバード大学所蔵「源氏物語画帖」にみる土佐光信の構図と空間表現
3. 学会等名 シンポジウム「室町時代源氏絵研究の最前線」(立教大学)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高岸 輝
2. 発表標題 「遊行上人縁起絵」の画風検討を通じた十四世紀絵巻史の再構築
3. 学会等名 真教と時衆を絵巻から読み解く 中世絵巻研究の最前線(遊行寺宝物館)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高岸 輝
2. 発表標題 室町將軍の身体觀 - 画像と彫像の比較分析
3. 学会等名 京都等持院歴代將軍像の謎に迫る (九州国立博物館) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Takagishi
2. 発表標題 Medieval Art, Patronage and Intercontextuality
3. 学会等名 International Symposium in Japanese Literary and Visual Studies (Columbia Univ. N.Y.) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ゲアハルト・ヴォルフ
2. 発表標題 遠さと近さ：聖地を測る
3. 学会等名 環境問題研究会 (ゲアハルト・ヴォルフ教授講演会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 『世界の中の熊野』主旨説明
3. 学会等名 地中海学会第42回大会 (地中海トーキング)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高岸輝
2. 発表標題 「戦国時代における霊場歴覽と縁起・勸進・絵画」
3. 学会等名 第71回 美術史学会全国大会 シンポジウム「聖地巡礼」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 コメント：像なのか、容器なのか
3. 学会等名 像内納入品研究の地平（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 市河米庵与董其昌：日本江戸時代后期接受清朝正統派書画的几个面相
3. 学会等名 丹青宝筏：董其昌書画藝術國際研討会 上海博物館（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 清宮收藏與江戸幕府の中國繪畫收藏
3. 学会等名 皇室文物的鑑賞變遷國際學術研討會 國立故宮博物院南分院（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塚本 鷹充
2. 発表標題 中国皇帝の身体と「聖心」イメージ 東アジアにおける内臓表象とその意味
3. 学会等名 第69回美学学会 国際シンポジウム ハート形のイメージ世界：見えるものと見えないもの（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Akiyama
2. 発表標題 Emperor's Body and Regalia from Comparative Perspectives
3. 学会等名 Staging Ruler's Body in Medieval Cultures: A Comparative Perspective, University of Fribourg, Switzerland (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高岸 輝
2. 発表標題 中世絵巻に描かれた霊地と国土 王者と聖者の見た風景
3. 学会等名 公開講座：続・古典を読む 歴史と文学
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 高岸 輝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 444
3. 書名 中世やまと絵史論	

1. 著者名 松崎 照明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 288
3. 書名 山に立つ神と仏 柱立てと懸造の心性史	

1. 著者名 板倉聖哲	4. 発行年 2019年
2. 出版社 羽鳥書店	5. 総ページ数 84
3. 書名 李公麟「五馬図」	

1. 著者名 板倉聖哲ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 藤田美術館	5. 総ページ数 170
3. 書名 名画の殿堂：藤田美術館展 傳三郎のまなざし	

1. 著者名 板倉聖哲・塚本磨充編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉成出版	5. 総ページ数 508
3. 書名 コレクションとアーカイヴ 東アジア美術研究の可能性	

1. 著者名 板倉聖哲・塚本磨充編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 712
3. 書名 アジア佛教美術論集 東アジア編 北宋・遼・西夏	

1. 著者名 板倉聖哲編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 696
3. 書名 アジア佛教美術論集 東アジア編 南宋・金・大理	

1. 著者名 高岸輝ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 和歌山県立博物館	5. 総ページ数 285
3. 書名 国宝粉河寺縁起と粉河寺の歴史	

1. 著者名 板倉聖哲・小川裕充編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 中国絵画総合図録三編 第六巻 総索引	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板倉 聖哲 (Itakura Masaaki) (00242074)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	塚本 磨充 (Tsukamoto Maromitsu) (00416265)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	高岸 輝 (Takagishi Akira) (80416263)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	松崎 照明 (Matsuzaki Teruaki)	東京家政学院大学・客員教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 ゲアハルト・ヴォルフ教授講演会(環境問題研究会、和歌山県新宮市)	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 ダリオ・ガンボニー教授講演会(環境問題研究会、和歌山県新宮市)	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関